

市民活動展で紹介した千葉県の環境保全活動団体の環境学習について II

小川かほる

1 はじめに

市民団体の環境保全活動の広がりを目指し 2009 年度から環境保全活動団体等と連携し、企画展（市民活動展）を環境学習コーナーにて開催している（第 3 章）。

2010 年度には市民活動展①「地域あげての温暖化防止活動ー美田自治会のグリーン・ぐりーん大作戦ー」と市民活動展②「人と自然の共生をめざす環境教育ーNPO 法人千葉自然学校ー」を開催した。

2 方法

市民活動展①については、NPO 温暖化防止ながれやま代表、美田自治会長、役員に対するヒアリング結果、美田自治会報ならびに報告書¹⁾を元に、展示パネルを作成した。

市民活動展②については、NPO 法人千葉自然学校職員に対するヒアリング結果、ウェブページ²⁾、提供された資料^{3,4)}を参考にして、展示パネルを作成した。

3 地域あげての温暖化防止活動ー美田自治会のグリーン・ぐりーん大作戦ー

3・1 展示内容

環境問題の解決には、多くの人が協力して取り組むことが必要であるが、地域の自治会が市民団体と連携して、まちぐるみで温暖化防止に取り組む例は少ない。「グリーン・ぐりーん大作戦」は、流山市美田自治会と NPO 温暖化防止ながれやま（以下 NPO ながれやま）が中心となり、大学や行政等と連携協働し、自治会として取り組んだグリーンカーテン設置とコミュニティバス乗車促進による温暖化防止活動のことをいう。ただ活動するだけでなく、その事業効果を測定し活動のマネジメントを実施している。展示では効果調査結果を含めて紹介した。

3・2 NPO 温暖化防止ながれやま

流山市に居住する千葉県地球温暖化防止活動推進員が中心となって、市民・団体・企業・行政などとパートナーシップを組み、温暖化防止の活動を推進してい

る。温暖化防止のための啓発事業として「市民出前講座、環境家計簿の普及、市民環境の集い、環境イベントの開催・参加、環境学習会」を開催している。また、市民 CO₂ 削減量調査事業を行い、CO₂ ダイエット記念植樹、協働まちづくりとエコ活動のタイアップを行っている。

3・3 流山市美田自治会

流山市は、東京都心より 25km 圏内に位置する人口約 16 万人の都市で、2005 年のつくばエクスプレスの開業により、沿線では大規模な区画整理と宅地開発が進んでいる。美田地区はつくばエクスプレス流山おおたかの森駅から徒歩 30 分のところにあり、1 戸建てを中心とする住宅地である。美田自治会の創立は 1973 年 3 月であり、現在は約 640 世帯約 1900 名で構成され、65 歳以上の高齢者が占める割合は約 30% である。

3・4 活動の評価

3・4・1 まちぐるみの環境保全活動

美田自治会では、グリーンカーテンの設置は、2008 年の 60 世帯から 2010 年には 170 世帯に増加し約 4 軒に 1 軒の割合でゴーヤが作られた。自家用車からコミュニティバスへの乗り換えの呼びかけを自治会が積極的に行うだけでなく、コミュニティバス運行事業の採算にも関心を寄せている。環境保全意識を共有する市民団体ではなく、多様な価値観を有する町全体での環境保全の取組の成功事例は、環境保全活動を一般化するための参考となる。

3・4・2 連携・協働の取組

「グリーン・ぐりーん大作戦」は美田自治会長と NPO ながれやま代表が共に流山市環境審議委員に就任し、出会ったことから始まった。美田自治会、NPO ながれやまそれぞれのネットワークにより、流山市、江戸川大学、千葉県立流山高等学校、流山市民活動推進センター、株式会社チームネットと、行政・大学・企業が参加する協働取組となった。NPO ながれやまのコーディネーターと美田自治会長のリーダーシップ、美田自治会と NPO ながれやま両方に所属する人の存在が重要で

あった。

3・4・3 活発な自治会活動が基礎

美田自治会の活動方針は、明るく・楽しくそして安全に安心して暮らせる町であり、全員参加、犯罪ゼロ、孤独死・災害死 ゼロの町を目指し、「防犯・防災・環境・福祉」を活動の4つの柱としている。自治会活動を活性化するための要件を表1に示す。マネジメントを自治会運営に活かしていることが特筆できる。

表1 美田自治会の活動を活性化するための要件

- | |
|-----------------------------------|
| ①強いリーダーシップを発揮できる指導者(任期は5年以上) |
| ②会員は何を望んでいるか?(要望の把握) |
| ③目標の設定(高い目標を掲げる) |
| ④目標達成の為に全力を注ぐ |
| ⑤ 結果にたいし達成感、反省し、次ぎへ生かす(PDCA サイクル) |

地域をあげての環境保全の取組の推進には、環境意識の高まりだけでなく地域コミュニティが健全に機能していることがポイントである。地域自治組織としての活性化が必要であることがうかがえた。

4 人と自然の共生をめざす環境教育—NPO 法人千葉自然学校—

4・1 展示内容

赤ちゃんから高齢者まで、千葉自然学校が提供している「人と自然の共生をめざす環境教育アクティビティ」の概要を紹介した(表1)。

表1 展示で紹介した千葉自然学校の環境教育

| 活動名または活動場所 | 対象 |
|---|--------|
| ベジちび☆自然教室 公園くらぶ・田舎くらぶ | 乳児幼児・親 |
| ちばの里山・里海でお仕事体験! ジョブマスター | 小・中学生 |
| 房総を歩こう | 大人 |
| 南房総市大房岬少年自然の家 | 全て |
| 千葉県立君津亀山少年の家 | 全て |
| 自然のなかで仲間と遊ぶ、心と身体の感動体験! ヤックス自然学校 | 子ども |
| コスモ石油「環境教育支援プロジェクト」2010『豊かな森づくり～気づきから学び、行動へ～』 | 小学生 |
| アラックス・プロジェクト「ごみから考える環境教育プログラムの作成と普及事業 | 小学生 |
| ハウス 食と農と環境の体験教室・千葉佐倉 | 小学生・親 |

4・2 NPO 法人千葉自然学校

NPO 法人千葉自然学校は千葉県の地域資源や人材を活用し、人々に自然体験・農林漁業体験の機会を提供

するとともに、県土の環境保全及び地域振興を図ることを目的に2003年に設立された。千葉県の自然・産物・産業・伝統文化・景観等を活かした体験活動を提供するとともに、自然体験活動をしている個人・団体とのネットワークである「千葉自然学校ネットワーク」の推進力となっている。

4・3 活動の評価

4・3・1 自然への感受性を育む

地域の環境保全に取り組むためには、まず自然を好きになり、地域の自然のことを理解し、そして自然を大切にしようと思う意欲が必要である。そのためには、自然の中で五感を研ぎ澄ませ、自然への感受性を養うことが基礎になる。

県内の豊かな自然を活用するだけでなく都市公園を活用して、多くの人に自然の気持ちよさを体験してもらっている。また、野外で協力して課題を解決する経験を通して協力・責任・友情・正義・奉仕といった人間的価値とそれを媒介として民主的な人間関係を構築する技術、態度を学習できるイニシアティブゲームを導入し、人間関係やコミュニケーション能力の育成にも配慮している。

4・3・2 連携・協働の取組

企業とのタイアップや千葉自然学校ネットワークのメンバーと連携することにより、県内の各地の特色を生かしたプログラムを実施している。観光の要素も含め事業に取り組むNPOとして県内で貴重な存在である。

5 まとめ

地域あげての環境保全活動、環境学習事業の推進には、多様な主体による連携・協働の取組が重要であるが、その要となっている市民活動を紹介した。

参考文献および注

- 1) NPO 温暖化防止ながれやま: 広げよう「エコの輪と地域の和」～「美田モデル」から学ぶ協働まちづくりの秘訣～(2010)
- 2) <http://www.chiba-ns.net/>(2011年8月25日参照)
- 3) 千葉県立君津亀山少年自然の家: 平成22年度プログラム集
- 4) 南房総市大房岬少年自然の家: 平成22年度プログラム集